



教会報

キリストのうちに一つになって、主の平和を広めよう



永遠の約束に宿る希望

アナンシー助祭

人生において、避けて通ることのできないものは死だ。クリスチャンとして、私たちは死が決して人生の終わりではなく、待ち望まれた栄光の始まりであることを知っている。(ヨハネ 11:25-26) この世界が私たちの終の棲家ではないという考えに立ち返ると、本当の家は目に見える具体的なものの向こうにあることに気づく。この物的な世界で慰めや居場所を見出すかもしれないが、聖書は究極の行き先が天国であることを思い出させてくれる。これは、自分たちよりも大きな何かを信じる信仰と一致している。私たちの記憶、願望、宝物は神の国と調和し、天からの視点を持つべきだろう。(フィリピの信徒への手紙 3:20、コリントの信徒への手紙 二 5:2)

私たちは、この世の向こうに永遠が存在することを約束された神の言葉に大きな希望を見出す。神の言葉は、私たちの苦しみや痛み、暗い瞬間が無駄で

はないと安心させてくれる。むしろ、神の愛と永遠の命への希望を思い出させる。これらの約束を守り続けることで、人生の困難に直面した時も励まされるだろう。私たちは神への信仰にしがみつき、神の約束が私たちを真の家へ導いてくれると信じている。(ヨハネの黙示録 21:4、ローマ信徒への手紙 8:18)

人生はしばしば再び立ち上がることのできない程の試練をもたらすが、この世界が最終的な故郷ではないという気づきは、困難な時期に励ましを与えてくれる。試練や困難に直面しても、信仰に頼り、共同体から気づきを得ることができる。これらの瞬間は、神との関係において成長の機会となり、私たちは神に力を求めて神に頼ることを学ぶ。私たちが互いに支え合い、高め合い、聖書からキリストにある希望を思い出させてくれますように。



命(ビオス)から命(ゾーエー)へ イエス・キリストが与える命とは

主任司祭 B. Nowak svd

新約聖書の日本語訳では、「命」という一つの単語に訳されているギリシャ語に、三つの異なる言葉があります。それらの言葉の違いに目を向けることで、福音書が伝えようとしている本当の意味が、より鮮明に見えてきます。

「命」と翻訳されている一つの言葉は、ビオス(bios)です。この言葉は、肉体的・物理的な、生物学的な命を指します。それはやがて過ぎ去るものです。

もう一つの言葉は、ゾーエー(zōē)です。ゾーエーは、ビオスとまったく異なるものを指しています。それは神から与えられる命、霊的で永遠なる命であり、神ご自身の命にあずかることを意味します。

三つ目の言葉は、プシュケー(psychē)です。これは「魂」「自己自身」、あるいは「その人そ

のもの」を意味する言葉です。

イエスが与える命

イエスは自分の使命について次のように語られています。すなわち、「わたしが来たのは、羊が命(ゾーエー)を受けるため、しかも豊かに受けるためである」(ヨハ 10:10)と。

イエスは、私たちのビオスを改善するため、すなわち、健康や富、長寿を与えるために来られたのではありません。人生の最終的な目的であり、最高の幸福の状態である三位一体の神ご自身の命にあずかるという、比較することのできないほど大きな恵みを与えるために来られたのです。

良い羊飼い

イエスは、前記のご自分の使命を果たす方法についてこう語られます。すなわち、「わたしは良い羊

飼いである。良い羊飼いは羊のために命(プシュケー)を捨てる」(ヨハ 10:11)という言葉です。ここで、三つ目の言葉であるプシュケーが登場します。

つまり、イエスは、私たちがゾーエー(神の命)を受け取ることができるように、ご自身のプシュケー、すなわちご自身そのものを、完全に捧げられたのです。十字架上でイエス・キリストのいけにえは、商業的な取引ではありません。むしろそれは、人間の本性が神の本質にあずかることを可能にすることによって、人間を「神化」させるものなのです。十字架上のイエスの死は終わりではなく、永遠の生命へとつながる扉なのです。

永遠の命(ゾーエー)への道

イエスをご自身の命を捧げることによって、私たちを神と和解させ、私たちが三位一体の神の命にあずかる道を開いてくださっただけでなく、同時に、その命をどのように受け取るべきか、その道も示してくださいました。イエスは、はっきりとこう語られています。「自分の命(プシュケー)を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命(プシュケー)を憎む者は、それを保って永遠の命(ゾーエー)に至る」(ヨハ 12:25)。

この言葉は、一見すると逆説的に聞こえます。しかし、ここで言われている「命」が何を意味するのかを理解すれば、聖書が伝えようとする意味が見えてきます。自分のプシュケー、つまり自分の計画、安全、快適さなどに執着している人、または、人生をただ楽しもうとだけしている人は、ゾーエーを失ってしまいます。けれども、イエスに倣い、愛と奉仕のうちに自分のプシュケーを捧げる人は、永遠の命という恵みを受け取るのです。

聖人たちは、そのように生きていました。子どものために自分を捧げる親、信徒のために仕える司祭、そして、技能や愛をもって他者に真に仕えるすべての人々は、その道を歩んでいるのです。

死とは単なる「眠り」に過ぎないのか？

イエスは友であるラザロが死んだことを知ったとき、弟子たちに向かって「わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く」

(ヨハ 11:11)と語られました。また、ヤイロの娘の死を嘆き悲しむ人々には、「子供は死んだのではない。眠っているのだ」(マコ 5:39)と言われました。なぜイエスは、身体の死、すなわちビオスを喪失して、人間が本当に亡くなることを「眠り」と呼ばれたのでしょうか。

疑問の余地なく、それはイエスがすべての人の復活を熟知しておられたからです(ヨハ 5:28-29)。つまり、人間は死んでもいつかビオスの命へと呼び戻される、言い換えれば「起こされる」ことを知っておられたのです。

だからこそ、人間にとっての本当の問題はビオス、または、プシュケーを失うことではなく、ゾーエーを失うことにあります。なぜなら、ゾーエーの喪失、すなわち神との断絶は、いつか目覚めるような「眠り」などではなく、神の愛と命にあずかる希望が完全に絶たれた、永遠に続く、神と他の人々との無縁の状態、真の「死」そのものだからです。

永遠の命は「今」始まる

福音記者聖ヨハネは、永遠の命について明確に定義したイエスの言葉を記しています。すなわち、「永遠の命(ゾーエー)とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」(ヨハ 17:3)と。永遠の命とは、死後に神から与えられる恩恵だけを指すものではありません。それは、今日この瞬間から始まる、神との交わり、すなわち神との生きた関係なのです。

一回一回のミサ、毎日の祈り、隣人への愛の行いなどは、単なる「宗教的義務」ではありません。それらは、私たちのうちですでに動き始めているゾーエーを生きたことなのです。キリストが与えてくださる命は、ただ「より長く生きること」ではありません。それは、神の命にあずかり、神とともに生き、そして自分自身を他者のために差し出すことによって、すでに今ここで始まっている永遠の命のことなのです。

{ 平和の祈り～聖体賛美式 }



日本カトリック平和旬間にあたり、8月6日18時30分のミサと、8月9日10時30分のミサを世界の平和のためにおささげしました。ミサの後には聖体賛美式が行われ、皆で心を合わせ平和を願い祈りました。



{ 聖母被昇天祭 }



8月16日10時15分、マリア庭園にて聖母被昇天祭が行われました。マリア様の御像の前で、参加された皆さんとともに聖歌を歌い、ロザリオの祈りをささげました。中高生会からはマリア様に花束が奉呈され、皆で祈りのひとときを過ごしました。



{ 日学納涼祭 }



夏休み最後の日曜日、日曜学校は夏祭りを開催しました。



敬老ミサ

9月13日(日)は、敬老ミサを行います。

9時・10時30分・17時の各ミサ終了後に、80歳以上の方に、病者塗油の秘跡を授けます。

対象の方には案内ハガキを送付しております。お手元に届いていない方は、受付にお申し出ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

初聖体について

9月20日(日)10時30分のミサの中で3名の子どもが初めて聖体の秘跡を受けます。初聖体のために準備している子どもたちのために祈りください。

吉祥寺教会信徒親睦バザー

10月18日(日)11時30分より、吉祥寺教会信徒親睦バザーを開催します。今年度は、各会に加えて、グループ・個人からの出展もあります。皆さまのご参加をお待ちしております。

- ・吉祥寺教会司祭団：お楽しみに！
- ・ヨゼフ会：焼きそば、お菓子、小物、輪島朝市乾物、Tシャツ
- ・マリア会：手作り小物、手作り焼き菓子、雑貨、小物、新品衣料、食品
- ・日曜学校：キャンディレイ
- ・ベトナムコミュニティ：揚げ春巻き、ベトナムスイーツ
- ・フィリピンコミュニティ：フィリピン料理、菓子、ロザリオ、Tシャツ
- ・グループ・個人より：キャンドル、巡礼地の物品、駄菓子、手作り雑貨、世界各地のお茶

※販売品は変更になる場合があります。

ミサと講座のご案内

主日のミサ Sunday Mass

曜日	言語など	時間
土曜日 Saturday	日本語 (Japanese)	17:00
日曜日 Sunday	日本語 (Japanese)	9:00 10:30 17:00
第一日曜日 1st Sunday	English (英語)	14:00
第二日曜日 Chúa Nhật thứ hai	Tiếng Việt (ベトナム語)	14:00
第三日曜日 3rd Sunday	Tagalog (タガログ語)	14:00
第五日曜日 5th Sunday	International Mass (国際ミサ)	10:30

週日のミサ Weekday Mass

曜日	時間
月、火、水曜日 / Mon, Tue, Wed	6:45
木曜日 / Thu	18:30
金、土曜日 / Fri, Sat	10:30

カトリック吉祥寺教会の講座

講座の再開は、9月第二週目の火曜日(8日)からですが、この日のボクダン神父の「新約聖書入門」は、休みとなります。

曜日	時間	講座名	担当者	場所	対象者／内容
火	10:00 毎週 (月の第1火休み)	聖書の朗読と分かち合い	フリッツ神父	小ホール	信者、一般の方 / 新約聖書
	11:00 毎週 (月の第1火休み)	新約聖書入門	ボクダン神父	中ホール	信者 / マタイの福音書
	15:00 毎週 (月の第1火休み)	典礼と秘跡	テレンシオ神父	中ホール	信者 / 典礼と秘跡について
水	11:00 毎週 (月の第1水休み)	聖書入門	アナンシー助祭	中ホール	信者 / 聖書に関する教会の教え
木	10:00 毎週 (月の第1木休み)	Bible reading and sharing	Fr. Frytz	小ホール	Intended audience: faithful, general public Content: The New Testament
	11:00 毎週 (月の第1木休み)	恩恵の架け橋聖母マリア	テレンシオ神父	中ホール	信者 / 父である神は、聖母マリアを通してどのように働くかについて
	19:00 毎週 (月の第1木休み)	キリスト教基礎	ボクダン神父	中ホール	一般の方、洗礼・堅信の準備をする方、信者 / カトリック教会の基本的な教え
土	11:00 毎週 (月の第1土休み)	キリスト教基礎	ボクダン神父	中ホール	一般の方、洗礼・堅信の準備をする方、信者 / カトリック教会の基本的な教え

- 洗礼を希望している方、キリスト教に興味をお持ちの方、どうぞご参加ください。
- 受洗後のフォローアップのため、また、聖書・教理の学びを深めるために信徒の方もご参加ください。
- 受講料は必要ありません。 ● 国民の祝日にはすべての講座は休講となります。



吉祥寺教会 公式 LINE

週に一度、主任司祭より福音のメッセージと教会からのお知らせ配信されます。ぜひご登録ください。

カトリック吉祥寺教会 〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-7-8 Tel.0422-44-0181 Fax. 0422-44-0180
維持献金 振込口座 郵便振替口座番号:00120-1-6084 カトリック吉祥寺教会
事務室 受付時間 月曜日 休 / 火～金 10:00～15:00 / 土 10:00～17:00 / 日 9:00～15:00

<https://kichijoji-catholic.org/>

